

## 小上粉

小上粉は京都の原産とされており、分枝が多くかつ根際から子葉を発生して1～2番刈とも収量多く品質良好で加工に適する。大正末期までは赤花種が栽培されていたが昭和2～3年頃、この変種とみられる白花種が発見された。白花種は赤花種よりやや晩生であるが青藍含量、収量ともに優れているため、その後現在まで小上粉はもっぱら白花種が栽培されている。

引用:旧徳島県立農業試験場百年史 第3章「特用作物及び飼料作物に関する研究」

第2節 研究業績 1. 藍